

# 「アジア・オセアニア高校生フォーラム2016」参加報告

(開催期間:平成28年7月30日～8月3日 開催場所:和歌山県和歌山市ほか)

栃木県立佐野高等学校 2年3組 新井 隆太

## 1. フォーラムの概要

「アジア・オセアニア高校生フォーラム2016(Asian and Oceanian High School Students' Forum 2016)」は、グローバル社会で活躍できる人材の育成と、アジア・オセアニア諸国の友好と親善を図る目的で企画され、平成28年7月30日から8月3日にかけて、和歌山県和歌山市で開催された。アジア・オセアニアの20の国や地域から1人ずつと、和歌山県内の12の高校から20人、京都や栃木などの和歌山県外の5つの高校から1人ずつの、合計50人近くの高校生が一堂に会し、世界共通の課題である災害対策や環境問題、観光・文化、国際問題などについて、各々が調査、研究した成果を英語で発表し、それらをどのように対処すべきか、高校生の視点で議論した。



【Fig.1】フォーラム参加者集合写真

## 2. 日々の活動報告

### ◇1日目(7月30日)◇

佐野駅よりJR両毛線に乗車。東北新幹線、東海道新幹線、JR阪和線を乗り継ぎ、和歌山駅に到着した。その後、宿泊先のホテルへバスで移動した。

### ◇2日目(7月31日)◇

参加者同士の親睦を深めるための和歌山県世界遺産研修ツアー(高野山)に参加した。地元和歌山の高校生の案内のもと、奥之院弘法大師御廟や金剛峯寺、壇上伽藍などの歴史的な観光スポットを訪問した。和歌山古来の文化や風光明媚な自然を満喫した。ホテルに戻った後は、バンケットホールで他国の生徒や先生とテーブルを囲んで夕食をとった。その後別室で、3日目の開会式、分科会発表のリハーサルや、4日目の全体会での議題についての話し合いを、各カテゴリーで行った(Fig.2)。各カテゴリーは、それぞれチェアパーソンが2人、プレゼンターが8人の計10人で構成された。私は環境カテゴリーのプレゼンターの1人として参加したが、昼間の雰囲気とは打って変わって、皆真剣な様子だった。

防災

観光・文化

情報

環境

国際問題



【Fig.2】話し合いの様子



和歌山県公式キャラクター「きいちちゃん」

### ◇3日目(8月1日)◇

午前中、和歌山県民文化会館で開会式が行われた。知事の挨拶の後、**各国・各地域紹介**があった(Fig.3)。私は、栃木県代表として、栃木県や佐野市および佐野高校の特色や魅力について、英語で発表した。

午後は、カテゴリー別に**分科会**が行われた(Fig.4)。私は、“The Behavior and Effects of Exotic Turtles in Japan(日本における外来ガメの生態とその影響)”と題し、科学部で自分が研究しているミシシippアカミミガメ(米国原産)を事例とし、世界中で問題となっている外来種を減少させ、生態系を保護し、種の多様性を維持するためにはどうすべきかを発表した。ほかの高校の先生、各国・各地域の引率の方から、「長年蓄積されたデータを緻密に分析するとともに、大学と連携して高度な研究を行っており、素晴らしい発表だった。」とお褒めの言葉を頂いた。

### ◇4日目(8月2日)◇

チェアパーソンが提起した問題について、プレゼンターが、それぞれ意見を発表する**全体会**が行われた(Fig.5)。環境カテゴリーの発表では、チェアパーソンによって、“In each country or region, what can we do to protect the environment where humans and other creatures live for the future generations?(それぞれの国や地域で、未来の世代のために人や生き物の住む環境を守るには、どのようなことができるか)”という問題が提起された。私は、「環境を守るための取り組みを一国だけで行うことには限界がある。COPなどの国際会議をより活発に行えば、環境保全により効果的な法律の整備や条約の締結につながる。」といった内容の意見を英語で発表した。

### ◇5日目(8月3日)◇

海外の生徒をホテル前で見送った。短い間だったが、親密な関係を築くことができた。その後、帰宅の途に就いた。



【Fig.5】全体会での私の発言の様子



【Fig.3】各国・各地域紹介での私の発表の様子



【Fig.4】分科会での私の発表の様子

## 3. おわりに～このフォーラムへの参加を通して私が学んだこと～

20の国や地域の生徒との活動を通して、自分の意見をしっかり持ちつつ、相手の考えも尊重することの大切さや、幅広い角度から物事を捉え、柔軟な姿勢で接することの重要性を実感した。相手を理解するためには、相手との信頼関係を築く必要がある。そのためには、コミュニケーションの道具である英語を用いて、積極的に話しかけることが重要である。世界の国や地域の中で、英語を母国語としている国はそう多くはない。だからこそ、相手に自分の考えを理解してもらおうという心構えで、自分の殻を打ち破って相手との対話をする必要がある。この貴重な5日間の体験は、これからの私の高校生活に大きな影響を与えてくれるだろう。グローバル化が急速に進む社会では、いくつかの国の人々が、ひとつの課題や目標の達成のために協働するという場面も増えていくはずだ。私は、このフォーラムで学んだことを生かし、「国際人として活躍できる真のリーダー」として、この世の中を生き抜いていきたいと思う。